様式第3号

令和４年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	1	学校名	静岡県立下田高等学校（全）	校長名	石田　金也

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	すべてに優先する安心安全な学校づくり	教職員から積極的に挨拶を行い、挨拶の良さを感じ、生徒から挨拶できるようにする。	普段の学校生活で生徒も教職員も積極的に行うことにより、生徒自ら挨拶できるようになった。	A	今後も引き続き挨拶指導を継続し、明るく元気な挨拶を行うようにしたい。
		教職員から積極的に挨拶を行い、可能な限りさらに一言付け加えコミュニケーションを取る。 授業時の挨拶を室長中心に元気よく行う。	概ね良好。挨拶＋一言でコミュニケーションがアップした。多くの生徒が積極的に挨拶できている。	A	登下校時だけでなく、在校中も生徒から挨拶ができればなお良い。 授業時の挨拶は次年度も継続指導。
		挨拶しよう、させようという意識で臨み、明るい挨拶の行きかう学校生活を創っていく。	休み時間に廊下ですれ違った際も、しっかり挨拶できる生徒が多い。	A	授業の開始と終了の挨拶をしっかりさせたい。
		「みんなで指導」をスローガンに、挨拶の指導を徹底する。 ２学期以降は、生徒から挨拶ができるようになる。	情報共有が密に取れるようになってきて、個人としてではなく、学校として指導できる場面が増えた。 少しずつ挨拶できる生徒が増えてきた。	B	教職員全体が生徒と向き合って指導できるようになるために、普段からの関係作りを大切にしていきたい。
		授業・生活面で生徒をよく観察し、教員間の情報共有を密に早期に発見し、心配な生徒には、学年・SCで早期対応する。	心配な生徒には早めに面談・電話連絡・家庭との連携や家庭訪問・SCの活用を行うことができ、現在、不登校生徒はいない。	A	継続して学校生活で生徒を観察し、心配な生徒の情報交換・早期対応をしていく。
		１日１回以上の見回りを行い、生徒の観察と、居場所作りに努める。 年間欠席10日以内の生徒95％を目指す。	可能な限り見回りを行い、生徒の状況把握に繋げることができた。 定期的な通院や精神的なものから欠席する生徒以外は出席率は概ね良好。	B	受験生という立場にもなるので、精神的なケアも含めて生徒への声掛けを行う。
		メンタルが弱く不登校や進路変更となる生徒が増えているので、職員の情報交換と生徒との会話を大切にして丁寧な支援を行う。年間欠席10日以内の生徒95%	年間欠席10日以内の生徒97.1%。感染対策に気をつけながら、元気よく学校生活を送れている生徒が多かった。	A	表面上は明るく振る舞っていても悩みを抱えている生徒もいることに注意が必要である。
		生徒データ等を含む情報データにおいて、情報漏洩等のトラブル防止に加えて、利便性の高い情報システムの構築を行う。	個人情報のレベルによって、校内のサーバーと静岡県のサーバーの使い分けが行われている。	B	職員会議、朝打ち等で利用しているgoogle drive の取り扱い方法がまだ確立されていないので現行の静岡県サーバー、校内サーバーとの使い分けを含めて検討し、整備していきたい。
		スムーズなオープンスクールの企画・実施による、地域に信頼される学校づくり。	新型コロナウイルス感染症対策のため、公開対象を中学３年生とその保護者、本校保護者に限定して実施した。336名の方に来校いただき、アンケートもおおむね好評であった。その他の方に来ていただく機会はなかった。	A	新型コロナウイルスの状況を踏まえ、感染症対策、公開対象、公開日を引き続き考えていく。
		下田高校生としての自覚を確立し、教員全体の「見逃さない指導体制」の構築 ・服装・頭髪検査を月１回実施 ・教員間の連携を密にし、人間関係トラブルの未然防止を図る。	集会時に服装・頭髪検査を行った。情報共有が盛んに行われたおかげで、トラブルが少なくなったように思う。	B	時代の流れとして生徒の主体性に重きを置いているので、どこまで細かく指導するべきかが難しい。
		安全に関する教育（ネットワーク利用犯罪、不審者、薬物等）の徹底　・薬物講座、防犯教室を年１回実施	不審者情報の伝達や防犯教室の実施ができた。	A	１人１台端末を持ち始めたので、インターネットに特化した講演の実施を考えたい。
		交通安全教室の実施 歩行、自転車、送迎を含めた交通ルールの指導の徹底とマナーの醸成	登下校時の交通ルールについて定期的に注意を行ったが、近隣住民からの苦情も多かった。	B	自転車のヘルメット着用が努力義務となるので、どこまで強制すべきか。
		学期ごとの安全点検やワックスがけなどを円滑に実施する。清掃状況や清掃用具の確認を行い、安全で清潔な学校づくりを目指す。	2・3学期の安全点検はまとめて実施し、可能な限り道具交換や修繕を行うことができた。クラス減に伴い、清掃場所や清掃用具の変更、確認を行った。	B	さらなるクラス減に伴い、清掃場所の変更が必要となる。安全で清潔な学校づくりのため、効率的な清掃分担、計画を行いたい。また、生徒が行う安全点検の実施について検討したい。
		薬品管理を徹底し、使用記録を適切に取る。	薬品管理を徹底し、薬品台帳に記録を残すことができた。実験においては生徒実験の前に予備実験を行い事故のない環境づくりを徹底した。	A	次年度も引き続き継続していく。
		施設や備品等による事故やケガを防ぐために、学期１回の点検・管理を徹底する。	毎授業前に点検を行い、事故を防ぐことができた。	A	引き続き点検・管理を行う。グラウンドについても安全に使用できるよう継続して土の搬入等を依頼する。
		保健室と密に連携し、体調不良者が出た際には授業後保健室へ確認に行くなど、健康管理が必要な生徒の把握、配慮をする。	養護教諭との連携により生徒への配慮をし、昨年より保健室の来室者数は減少した。授業後の来室も少なかった。	B	引き続き密に連携し、生徒の様子の確認も行う。
		施設設備の不備による事故発生件数　０件	施設設備の不備による事故の発生は無かった。施設点検により、危険個所を未然に発見し、修繕工事を実施した。12月末時点の予算執行率は、75.6％で計画的な執行ができた。	A	・施設設備の経年劣化が目立ってきているので、定期点検を確実に実施する。特に事故防止に必要な対応は効果的かつ速やかに行う。 ・修繕計画（スケジュール等）について、学校全体で情報共有を徹底する。
		自治体と連携した防災体制の構築。防災意識を高める訓練や講座の計画。	松崎町での台風被害などを具体例として取り上げ、防災意識を身近なものとしてとらえる試みができたが、スライドが見にくかったなど若干運営面で物足りない点があった。	B	引き続き自治体と連携して防災体制を充実させていく。以前訓練で実施していた避難用のスライダーを点検するとともに、実際に訓練で使用してみたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	グローバルで活躍できる人材の育成とローカルで活躍できる人材の育成	「SDGs」をはじめ、持続可能な開発に関する題材を取り入れた単元設定や授業づくりを各科目で1つ以上行う。	主に地理を中心として、意識的に持続可能な開発について取り扱い、授業を行うことができた。	A	歴史的な背景や社会制度といった視点からも、SDGｓについて取り扱い、より生徒の理解と興味関心を促していきたい。
		芸術を通して生徒自身が内面と向き合うことで感性や知性を磨き、芸術と体験的に関わることで物事に新たな意味や価値を見出す力を育てる。	様々な楽曲・作品に触れることで、体験的に関わることができた。	B	芸術の本質的な見方・考え方が深まるようにしたい。
		広い視野を持ち、他者を尊重したり気に掛けたりできる価値観を養うため、国家間の文化の違いや格差、環境問題などSDGsに関連した題材を取り扱った授業を、年間を通して3回以上行う。	主に新課程の授業を中心に該当の題材を規定回数以上取り扱うことができた。	A	次年度も引き続き継続していく。
		面談を中心に生徒の進路希望を丁寧に聞き取り、LHRでは進路について高い意識を持たせる。	土曜講習の積極的な参加を促し、文理選択のため早期に面談を開始し、3年生を招いて進路講話の開催、進路に関する動画を視聴させた。	A	今後も積極的に面談を行う。生徒の進路希望により、進路課と情報交換を密にしていく。
		月１回の個人面談を行い、生徒の進路希望を丁寧に聞き取り、それぞれの目標に合わせた進路指導を行う。	月１回の面談という形ではなかったとしても、日頃から進路の話題でコミュニケーションを取ることができた。	B	教員主導ではなく、生徒が自らの進路を探し、決定していくためのサポートを行う。
		6月の志望表明を軸に、進路について探求し、早期の目標設定と国公立大学合格40名を目指す。定期面談以外にも必要に応じて生徒との面談を行い、生徒を応援し心のケアに当たる。	国公立進路検討会には57名の生徒がエントリーした。担任との面談を繰り返し志望を明確にしてきた。	A	家庭の状況の突然の変化により、当初の志望を断念せざるをえないケースが何件か見られた。
		ＩＣＴ機器を活用した奨学金説明会業務の計画と実施。	ズームを用いて説明会を実施した。初めての試みで様々なトラブルが予想されたが、特に大きな問題もなく、個々の生徒の事情に応じて適切に対応することができた。	A	来年度もこの方式で実施し、さらに運営の精度を高めていきたい。
		育成を目指す資質・能力を明確にし、キャリア教育の視点を持って、３年間を見通した体系的な進路指導を構築する（総合探究と特別活動の視点で）。	具体的な指導内容について、系統的に構築することができなかった。	C	LHRと総探の指導計画を見える化するキャリアデザインシートを作成する。
		生徒の進路実現につながる特色ある理数科行事の整備。ビルド&スクラップでスリム化と魅力化を両立させる。	廃止した理数科勉強会の代わりに新設した理数探究事前学習は、外部から表彰された。理数科行事の五段階アンケートは各4.0以上5.0以下の範囲にあり、生徒の満足度は高かった。東京研修を復活させた。	A	次年度の年間行事に設定した理数科伊豆研修の細かな内容を詰めていく必要がある。
		1,2年部の記述模試平均偏差値について、文系50・理系55・理数科60、3年部の共通テスト模試の平均得点率については、Aコース30・文系40・理系50・理数科60を維持する。	1年は、Aコース40、Bコース45、理数科54であった。2年は、文系41、理系50、理数科52であった。3年は、Aコース22%、文系54%、理系56%、理数科64%であった。 1，2年は達成できなかったが、3年は概ね達成できた。	B	成果目標の基準値は変えずに、生徒のレベルに合わせた授業展開を考える必要がある。
		授業アンケートの「この授業で学力がついている」「私はこの授業に主体的に参加している」の項目について、「よく当てはまる」または「まあまあ当てはまる」と回答する生徒70%以上を獲得する。	ほとんどの講座で、70%以上の回答を獲得することができた。	A	習熟度別の講座であれば、多くの生徒が主体的に取り組み、学力をつけることができている。しかし、学力幅が大きい講座であると、授業についていくことで精一杯の生徒もいる。そのような生徒への対応を考える必要がある。
		学習活動について自走化できる生徒を育成する。生徒自ら、研究したり議論したりする課題を設定する。生徒アンケートで授業に主体的に参加していると答える生徒80%。	学年末評定平均で、序列Aの生徒が6名増えた。学習活動に主体的にまじめに取り組む生徒が多かった。	A	コロナ対策でグループ学習や声を出して発表する経験が減った。
		新学習指導要領実施に伴い、下田高校に適したカリキュラムマネジメントを研究する。	・令和４年度入学生の３年生までのシラバスを作成した。 ・来年度以降の入学生に対応した新教育課程の検討を行った。	B	来年度以降の入学生に関しては教育課程の検討の余地がまだ残されており、より良い教育課程となるよう検討していきたい。
		授業研究週間を利用して研究授業・合評会を数学科として年間で２回以上実施する。	授業研究週間に、互いに授業を見学することはできた。全体で研究授業を行うことはできなかった。	C	授業研究週間は、授業見学後に、助言をするような場面もみられた。普段から授業を見学することが多いので、それをより発展させていく。
		外部試験で受験者の30%以上が偏差値54に到達できるようにする。	偏差値54に到達できたのは全体の約15%であった。	C	教員間で連携し、生徒の実態を把握し、授業の改善に努める。
		進路希望調査結果を各学年と共有し、各生徒の希望に応じた支援方策を、低学年から、適時に実施する。	学年・担任と連携し、生徒の希望に沿った具体的な指導ができた。	B	生徒層の変化に伴う、全体指導の方策を検討する。
		３年生情報処理検定取得率80%以上	検定の取得率は約50%にとどまった。	C	全員で合格する意識が薄かったように感じる。放課後にパソコン室を開放し、自習を促すなどの対応をしたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ウ	**主体的、能動的に学ぶ力の育成**	生徒自身が主体的に動く活動を多く取り入れ、自分の考えやアイデアを周りに伝えられようにする。Classiを活用を反省を深め、次に活かすようにする。	Classiや手帳・ﾌﾟﾘﾝﾄ等を利用して、毎日生徒と情報交換を行い、自分の考え等伝えられる機会を設けた。	B	Classiを継続して積極的に活用していくが、さらに良い使用方法を模索していく。
		総合的な探究の時間を中心に、自らが主体的に動き、自分の考えやアイデアを周りに伝えられような環境を作る。 全てのアンケートの回答率100%を目指す。	樟耀祭、修学旅行等の学校行事でも主体的に動くことのできる生徒が増えた。探究での動画作成もグループで意見を出し合い協力することができた。	B	進路をはじめとする全ての活動において自己決定力を求める。
		読書活動の充実（１ヶ月に１冊以上本を読む生徒60%以上）	学校評価アンケートの集計で62.1%であり、昨年度の60.8%から増加した。	A	より多くの本を紹介して、更なる充実を目指したい。
		図書館の積極的な利用（全校生徒の55%以上）	学校評価アンケートの集計で48.7%であり、昨年度の53.1%から減少した。	C	居心地の良い図書館を目指して環境整備に努めたい。
		自らの考えや行動を可視化する重要性を共有し、学びの過程を蓄積する計画的な振り返りの仕組みを研究する。	1年部で「ｷｬﾘｱ・ﾊﾟｽﾎﾟｰﾄ」を実践したが、再構築の方法に課題があった。	B	全学年に展開していく。
		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を培うキャリア体験活動の機会を設ける（地域連携によるリアルな活動とオンライン活用）。	観光講座、寺子屋など、志望を深める機会を設けた。	B	担任と連携し、参加者を増やす方策を検討する。
		理数科課題研究で得られた研究成果の対外発信強化。地元中学生向けの発表機会や学校ウェブページ等の活用に加えて、学会参加の促進を含む。	ウェブページ更新12回、インスタグラム更新７回、学会参加８件。水産試験場の見学訪問、サイエンスダイアログによる英語講演、科学の甲子園４年ぶり県大会出場など、効果的な発信と、言語活動の機会作りができた。	B	本校理数科を志望する中学生を増やすため中学校にはたらきかける機会が設けられるように工夫したい。
		古典・演習を除く各科目において、「話す」「書く」活動を取り入れた授業を年間３回以上実施する。	古典・演習を除く各科目において、「話す」「書く」活動を取り入れた授業を年間３回以上実施することができた。	A	来年度も「話す」「書く」活動を積極的に実施していきたい。
		新学習指導要領に対応した内容や授業展開に重点を置きつつ、言語活動等を積極的に取り入れ、各科目において興味・関心を持てる生徒が70%以上いることを目指す。	特に１年生で始まった「地理総合」及び「歴史総合」において、言語活動を積極的に取り入れることができ、目標数値をそれぞれ超えることができた。	A	来年度より始まる探究科目や、公共においても、引き続き、言語活動を取り入れ、地歴・公民科目でつけるべき資質能力の育成を目指したい。
		年３回程度、アクティブラーニング型授業をする。	すべての教員が年間3回以上アクティブラーニング型授業をすることができた。	B	教員間で情報共有を行い、アクティブラーニング型授業を組織的に活用していくことを目指す。
		授業のテーマに対する自分の考えを言語化する活動を取り入れ、「自分の考えを持ち、言語化することができた」と答えた生徒の割合が90%以上。	授業アンケートの結果、94.5%の生徒が「自分の考えを持ち、言語化することができた」と答えた。	A	引き続き、言語化する活動を取り入れていく。生活に学びを取り入れやすい授業を行っていきたい。
		授業アンケート「私はこの授業に意欲的に参加している。(1～4)」を３以上で８０%以上にする。	授業アンケートでは「授業に意欲的に参加している」が96.2%だった。	A	生徒が主体的に考え、学ぶ授業ができたと思う。
		努力し継続してできた成功体験を増やし、自分に自信をつける。	企業体験や各行事を通じて、成功も失敗の経験を活かし、成長する姿が見られた。	B	継続して、各種行事に主体的に物事に取組むよう促す。良いところは積極的に褒めつつ、改善点を指摘する。
		生徒の良い部分を見つけ積極的に褒めることで自己肯定感を高めさせる。	学校生活を楽しく送るために、学年部全体で積極的に声掛けを行うことができた。	B	生徒に対して褒める部分と厳しさを求める部分のメリハリを継続する。
		最後の樟耀祭を思い出深いものにする。生徒に役割をもたせ、HR活動を充実させることで、学校生活に意欲と居場所をもたせる。	今年の重大ニュースでは、体育祭、樟耀祭がトップ2に選ばれた。楽しい思い出を作ることができて生徒の満足度は高かった。	A	感染対策に終始した3年間であったが、やれることはできる限りやる、という学校行事の基本方針かできつつある。
		学校案内や広報誌の見直しを行い、本校及び本校生徒の魅力を発信する。	来年度のクラス減に合わせて、ＰＴＡ組織の見直しを行いスリム化を図った。	B	引き続き組織の見直しや、広報誌の充実化を図りたい。
		・生徒会と部活動の活性化と活性化 ・担任による生徒面談の充実、 ・校内巡視による生徒観察	生徒会の主体的な活動や運営が増えてきた。生徒面談も充実していたと思う。	B	部活動の活動内容を充実させていきたい。地域との連携も視野に入れたい。
		夏休み明けの生徒アンケートなどで生徒の現況をできる限り捉え、情報共有をしたり、自己の心身に対しての意識を高めるための取り組みをしたりし、生徒の心身強化のサポートを行う。	保健室を中心に、きめ細かな対応ができた。通常の生徒対応に加え、夏休み明けアンケートの実施と面談、保健だより等での健康意識の涵養、運動部対象食育講座の開催など、様々なアプローチでのサポートができた。必要な範囲での情報の共有も確実に行えた。	A	来年度も引き続きサポートに努める。
		日々の体調管理を意識させ、授業の欠課（公欠除く）が５回以下の生徒が９０%以上を目指す。	全学年で89.2%の生徒が欠課５回以下であった。コロナの感染や濃厚接触による欠席が影響していると考えられる。	B	引き続き体調管理の呼びかけを徹底する。
		基礎体力向上のために、授業時の補強運動を意欲的に取り組ませる。また、新体力テスト全４８種目（８種目×３学年×男女）のうち４０種目以上で全国平均を上回る。	36種目で全国平均を上回った。全国平均を上回った種目でも、昨年度より下回った種目もあった。	B	体力の向上につながるよう、授業の体つくり運動の意図を明確にし、意欲的に取り組ませる。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	学校の組織力を高めるとともに、教職員の資質能力向上の推進	高校教育改革や学校の魅力化作りに沿った学校運営の在り方を検討する。	グローバルハイスクールの取組や、探究的な活動等学習指導要領への対応など積極的に行った。	A	グローバルハイスクール事業において、海外研修を実施するなどさらに魅力の創出を行う。
		生徒指導の校内研修の充実させる。学年部と生徒課の意思疎通を図るために、定期的に話し合いの場を作る。	生徒指導の校内研修については実施できた。学年部内での意思疎通は、学年によってばらつきがあった。	B	定期的な話し合いを充実させることで、普段の意思疎通を活発にしたい。
		教職員から学校の組織・運営に関して、年10回以上提案や相談を受ける。	各教職員から細かな提案も含めいろいろいただき、対応できるものについて対応した。	B	引き続き、改善できる箇所を提案や相談を受けていく。
		主体的な学びに有効なICT機器の整備と、研修等を通してそれを多くの教員が有効に活用できるようにする。	・校内の情報端末の扱い方を整備した。 ・生徒一人一台端末の利用に向けて各種ソフトウェアの活用法の研修を行った。	A	GIGAスクール対応の学年が今後増えていくので、校内での一人一台端末の扱い方の整備を引き続き行っていきたい。
		年に２回授業研究週間を実施。教育実習生の受け入れと適切な指導を行う。	・[授業研究週間]計画通り実施できた。 ・[教育実習]感染症対策に留意しながら、スムーズに実施できた。	A	新型コロナウイルスの状況を踏まえ、柔軟に対応する。よりスムーズで活発な授業研究、実習生指導となるよう、引き続き取り組む。
		「進路シラバス」・進路検討会などを活用し、進路指導体制の理解を深める。	新教育課程や高大接続の理念・考え方の共有がすすむような情報発信を続けた。	B	効率的で効果的な進路検討会の運営方法を検討する。
		「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツールなどの情報を分析・活用しやすい形で提供し、指導の検証、改善に結び付ける。	授業改善につながる振り返りを促す資料を提供し、分析内容を共有する機会を設けた。	B	生徒の気づきと振り返りをより豊かに学習改善を促す活用方法を検討する。
オ	極的な地域貢	各自治体と連携し、9月・12月の地域防災訓練への参加を促し、訓練参加率70%を目指す。	53%に留まった。コロナ対応で不参加という例が目立ったが、9月1日は平日ではない、12月は定期テスト、部活の大会、修学旅行、受験など行事が重なりやすい面もある。	B	訓練前に参加意義をきちんと伝達する、自治体からの参加サインをきちんともらう、参加状況の集計方法を見直すなど工夫を図り、参加状況を引き上げたい。
		個人または部活動でのボランティア、地域イベントへ参加した生徒60%	コロナの影響でボランティアの募集自体がまだまだ少ないが、地域イベントへの参加は増えてきた。	B	生徒が積極的に参加していくように指導していきたい。
		実験教室の運営を通した地域の小中学生との交流機会を事故ゼロで実施する。	小学生実験教室は事故ゼロ。中学生体験入学は感染症対策のため中止となったものの、オープンスクールで課題研究中間発表会を公開し、地域との交流機会とした。	B	小学生実験教室は高負担な事業の１つでもあるため、サイエンススクール予算執行上の必要があるものの、業務軽減を図りたい。
		地域人材の活用を推進し、全学年で年間３回以上の連携する機会を設ける。	総探（１年・２年）において２回ずつ実施した。また、寺子屋・観光講座・起業体験ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑなどを実施した。	B	グループ探究・個人探究における個別の連携方法を研究する。
カ	働き方の見直しを図り、働きやすい職場の構築	夏季休暇取得及び年次有給休暇５日以上取得100%	夏季休暇取得率等は良好であるが、勤務時間超過の職員が多数である。	C	休暇取得とともに、日常の勤務時間超過の減少するよう声掛けをしていく。
		共有ファイルを用いて、各担当が業務の反省や改善点等を記録することで、業務を精選し、次年度への引継ぎが潤滑に行われることを目指す。	多数の教務課員が入れ替わり、業務の引継ぎの件数が多かったことと、新課程により前年度通りといかない業務も多かったため確認を徹底できなかった。	C	同時に複数の目で、確認すること及び、各担当や課長などで複数回の確認作業を徹底していく。
		各担当業務の記録を確実に行う。より効率的な業務運営を目指し、業務の整理を行う。	年度当初に業務の整頓、再分類を行った。各担当業務の記録を行った。	B	来年度も引き続き行い、計画的な業務の実施につなげたい。
		職員アンケートにおける職場のコミュニケーション良好度90%	職場のコミュニケーションは良好である。83.3%昨年度と比較して、向上しているが90%に届かなかった。	B	引き続き職員間のコミュニケーションが活性化するよう努める。
キ	教育目標達成のための適切な財務執行	学校経営予算（執行時期が定まっているものを除く）の12月末時点執行率は、70%以上を目標値とする。年度末執行率は100%を目標値とする。 小破修繕は危険箇所を最優先に速やかに実施する。修繕費予算の12月末時点執行率は、70%以上を目標値とする。	学校経営予算は、光熱水費高騰等により逼迫したが、柔軟な予算執行により影響を最小限に留めた。12月末時点の予算執行率は73.7%、最終的な予算執行率はほぼ100%にできた。予算執行状況等は、教職員全体に情報提供を行うことで、経費節減等に全面的な協力を得られた。	A	光熱水費等の高騰、物価高騰等の状況に対して、教職員全体で連携し、より効率的な予算執行を実施する。より計画的で効果的な予算執行を実施するために、伺の早期提出への意識付けを継続して行う。